

ユリノキ
の町から

風の便り 75

2025 (令和7) /1/1.
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

椿・山茶花・夏椿 ゆりのき台限定令和調査報告書案素案下書き

花の消えた冬に街の灯りのように咲くツバキとサザンカ。似ているけれどどこが違うのか。「ご機嫌長屋」にはナツツバキが咲く。名前にツバキとあるのが気になる。こうした疑問を解き明かすことをめざす大論文の素案の下書きである。

系統分類：ツバキ (ヤブツバキ) : キク類 ツツジ目 ツバキ科 ツバキ属 (学名 *Camellia japonica*)
サザンカ (カンツバキ) : ツバキ属 (学名 *Camellia sasanqua*)
ナツツバキ (シヤラノキ) : ナツツバキ属 (学名 *Stewartia pseudocamellia*)

花 ツバキ

サザンカ

ナツツバキ



ツバキ各種 八重 2色



ツバキ：花冠がめしべを残して落ちる。12~4月
サザンカ：花びらが1枚単位で散る。10~12月
ツバキとサザンカ：
花色は赤、白、赤白塗り分けの3通り
形は大小、一重、八重、平板、筒状と多様
ナツツバキ：ツバキと同じ散り方をする
白色の一重。6~7月。一日で散る

寒くなりはじめるとサザンカが咲く。寒さが増すとツバキが咲く。この時期にナツツバキは枯れ木状態
散り方は、植物が正確な説明を順守しているわけではないので、ツバキやナツツバキが花びらを散らし、サザンカが決ごと落ちることもある
ツバキの散り方は特に嫌われたと聞か、黒澤明の娯楽時代劇映画には武家の屋敷に咲く紅白の椿が重要な役回りをする作品がある

花・散り方
ツバキ



八千代中央駅前 2024/1/3.

サザンカ



ナツツバキ



花・断面

ツバキ



八千代中央駅前 2024/1/3.

サザンカ



菅田第3緑地 2024/1/13.

ナツツバキ



サニーハウス 2024/6/9.

花・花が散ってしばらく後の様子

ツバキ



菅田第3緑地 2024/1/13.

サザンカ



ゆりのき台 2024/3/16.

ナツツバキ



サニーハウス 2024/6/13.

果実 ツバキ



第3緑地 2024/1/13.

サザンカ



ゆりのき台 2024/1/29.

ナツツバキ



サニーハウス 2024/7/15.

種子 ツバキ



菅田第3緑地 2023/11/13.

サザンカ



ゆりのき台 2024/10/18.

ナツツバキ



サニーハウス 2024/1/13.

種子 つつき

ツバキ: 大きい。多い。容易に見つけられる
 サザンカ: 少ない。見つけたら幸せに囲まれる
 ナツツバキ: たくさん出来る。5 裂した殻の各片の内側に扁平なタネが 2 個入り、殻が写真のような半開き状態で散る
 楕円: ヤブツバキの種子から採取。ヤブツバキ以外のツバキ属の種子からも採取するが、カメリア油と呼んで区別することがある



樹形 ツバキ (3月)



サザンカ (12月)



ナツツバキ (1月)



樹形: ツバキとサザンカは 1 年中同じ姿
 ナツツバキは冬は枯れ姿

ナツツバキ (6月)

右写真 (上下、同じ木) のナツツバキは自然に近い姿と思われる
 街では、ツバキ、ナツツバキは庭木、サザンカは生垣として目にする

幹: ツバキ: 灰白色で平滑

サザンカ: 灰褐色でなめらか

ナツツバキ: 老木は、樹皮が薄くはがれ斑状になる

幹



葉・葉脈 ツバキ



サザンカ



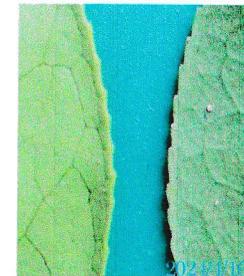
ナツツバキ



葉の大きさ: ツバキが大
 サザンカは小
 葉脈: 陽にかざすと
 ツバキは透けて見える
 サザンカは透けが悪い
 というのが、判別しにくいものもある
 まともにお日様に向けないのがコツ

葉・鋸歯

左・ツバキ 右・サザンカ



左・ツバキ 右・ナツツバキ



葉の縁にギザギザがある
 並べてみると違いがわかる

鋸歯の違いを含めて、目の前の木がツバキかサザンカを見分けるのは、植木職人でも間違えることがあるというからお気楽に

葉の毛: 葉裏に毛が

ツバキは無い

サザンカとナツツバキは有る

葉・毛 (葉裏の伏毛)

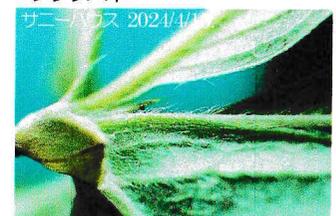
ツバキ (大きなふくらみ花芽)



サザンカ



ナツツバキ



蛇足のおまけの付録の付け足し

英語 [ツバキ] camellia

[サザンカ] sasanqua

仏語 [ツバキ] camélia

俳句 [椿・春] いつの間 無住寺となり落椿 能村 登四郎

[山茶花・冬] つくばいに散る山茶花の氷りけり 夏目 漱石

[夏椿・夏] 沙羅咲いて花のまはりの夕かげり 林 翔

オペラと小説 アレクサンドル・デュマ・フィスの小説「La Dame aux camélias (直訳: 椿の花の貴婦人)」をジュゼッペ・ヴェルディがオペラ化。オペラの問題は「La traviata (直訳: 道を踏み外した女)」日本では原作小説と同じ「椿姫」として上演されることが多い